

旅する森のようちえん

～エコツーリズム手法を活用した、非日常型活動

特定非営利活動法人いぶり自然学校（北海道）

<http://iburi-nature.com/>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

新千歳空港から30分圏内でありながら、ヒグマやクマゲラが生息する自然環境を有している。しかし、幼児やその保護者はその環境にほぼ気付いておらず、学校・幼稚園・保育園関係者もその有用性を生かしていない。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

「子どもと自然と、まわりの大人」というコンセプトを掲げ、その三者全てに幸せが訪れる活動の一つとして、森のようちえんを手法とした活動を展開している。その中で、他地域に行くことで、自分たちの地域の環境により目を向けることができるのではないかと考え、幼児と保護者に優しいツアーを企画した。

取組の概要

🌿 取組の内容

本州で森のようちえんを展開している団体に声掛けをし、親子で新千歳空港にやってきてもらう。空港から15～30分圏内の移動範囲で宿泊場所と活動場所を用意し、当団体のスタッフ及び当団体と関係の深い地域支援者と協力して、幼児と保護者のための自然体験活動の提供を行う。活動だけではなく、地域物産や農作物、地域にある文化や歴史も織り込み、幼児の遊びの中にふんだんに旅情を楽しめるような活動に仕立て上げる。



その活動をパッケージ化し、本州の他団体にも利用いただけるような横展開を進めたり、このような活動をやってみたいという地域を開拓したりして、より多くの幼児と保護者の知的欲求を満たす場と機会を創出する。

🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

移動時間が短く、子どもたちが屋内でも自由に動き回れて、かつ、家族のプライバシーを確保できる場として、廃校舎を利活用している。そして、子どもはもちろん、一緒にきた保護者も大人として楽しめたり、休んだりできるプログラムを用意することを重要視している。

🌱 実施体制について

最初は行政にも関わってもらい、受入れ協議会を立ち上げ、受入れ支援とその周知を行った。モデルができ始めた後は、より動きをスムーズにするために、いぶり自然学校の一事業として運営することとし、最後はより受入れ地域に近いNPO 団体へ事業譲渡を行うことで、事業の継続性を確保した。

🌱 安全性への配慮

自然学校として培った安全管理体制とそのノウハウをそのまま利用し、活動を展開した。積極的に地域人材や学生ボランティアにも関わってもらい、そのノウハウが継承されることに留意した。結果、他地域でも活動を安全に展開できる人材を育成することとなった。

🌱 地域機関・団体との連携

運営協議会を通して、近隣自治体と協定を締結し、お金ではない支援、例えば施設や備品の借用などに減免措置を講じていただくことを通して、参加者の負担を軽減させることに成功した。また、当団体にノウハウを集中させるのではなく、より受入れ地域に近いNPO 団体へ権限移譲をすることで、より濃密で地域性の高い活動をスピーディに展開できるようになった。

取組による効果

🌱 子供・保護者への影響

日常的な活動場面では、活動に制約が多くなってしまいう子どもにとって、「ずっと遊んでいてもいい」という非日常は、まるで鎧を下ろすような感覚があったのではないかと考えている。また、保護者にとっても、子育て中は旅行にも行けない、と諦めていたところを実現させるような機会となり、子どもの全開遊びと保護者のリフレッシュや知的満足を促進する、という非日常的活動ならではの効果を引き出すことができた。

🌱 地域社会への影響

他地域の子どもたちと保護者が来ることで、普段の自分たちの生活環境が大きなポテンシャルを持っていることを再確認できたことが大きい。そして、この手法がモデル化され、他地域でも展開されるようになった現象を見て、「この活動は間違っていなかったんだ」と確信することができた。

取組を通じて全体的な所感

幼児の活動を、単に幼児の成長や保育の一手法として見るのはもったいない、幼児や保護者による自然体験活動にもっと価値を見だし、他の課題を解決させられないかと常々考えていた。その一つとして、「森のようちえん手法を活用した森林整備」という活動を10年近くやってきたのだが、その可能性を更に広げられないか、と思索する中で、「人が来れば来るほどその環境が良くなっていく」というエコツーリズムの概念を森のようちえんに当てはめられないか、という掛け算が生み出した事業である。ともすれば地域のことは地域で解決するとか、地域の子どもは地域で育てる、というアプローチばかりが語られやすく、それは大切であると思いつつも、その一方で非日常の持つ力を生かした、質の高い「非日常活動」を作り出せば、点や線ではなく、面として地域ガバナンスが進められるのではないかと感じている。